

# 令和の戦艦大和「イージス搭載艦」

# 経費膨張 3倍超

「イージス艦の費用対効果が高い」。当初のうたい文句に反して史上最高額の自衛艦となりつつあるのが「イージス・システム搭載艦」です。建造費は当初計画の3倍以上に膨張。元海上自衛隊幹部は国家財政を食いつぶす「令和の戦艦大和」と批判しています。

↓関連の面

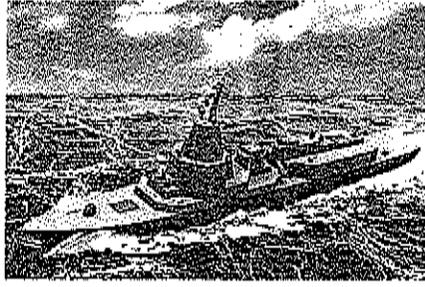
## シリーズ 解剖 岸田大軍拡 24年度軍事費は…

防衛省は、2024年度 9500億円に膨れているの予算の概算要求で「イージス・システム搭載艦1隻あたりの建造費は約3985億円に上ると公表しました。同艦は、住民の反対や技術的な問題で配備計画が破綻した陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」の代替構想です。

防衛省は10年、配備候補地である山口、秋田両県の住民説明会で陸上イージスの一基あたり建造費は約1200億円と「イージス艦の増勢よりも費用対効果が優れている」と強調して来ました。

しかし、陸上イージスが破綻すると防衛省はイージス・システム搭載艦に傾斜。20年11月にイージス艦の場合で2400億〜2500億円になると示して来ました。それが今では約3

9500億円に膨れているのです。本来ならば計画が破綻した際に全面撤回すべきでしたが、当時の安倍政権は対米関係を考慮し、陸上イージスに搭載する米軍艦大手ロッキード・マーチン社(LM)製のレーダー「SPY7」の延命に貢献。地上用の大型レーダーを艦艇に搭載する非現実的な計画



イージス・システム搭載艦「イージス」(防衛省発表資料より)

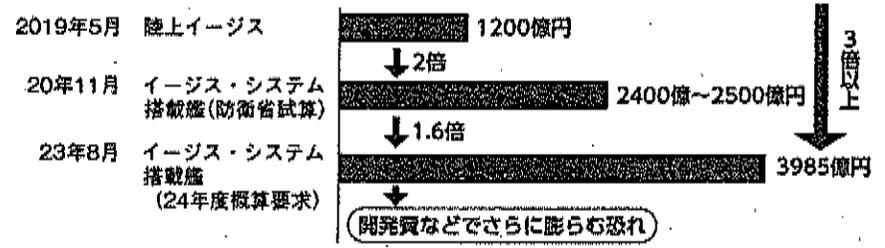
であるため、艦船の大型化など経費が増える形式に増加しました。それだけではありませんが、24年度概算要求には「各種試験準備、テストサイト等の運用支援設備、システム技術教育」などの関連経費として約1000億円を計上。こうした経費は、米国の武器輸出制度「FMS(有償軍事援助)」の場合には日本側が負担しませんが、しかし、SPY7は商社を通じて直接輸入する

ため、あらゆる費用が日本側の負担になります。元海上自衛隊隊司令官の香田洋三氏は3月の会見で「この先どれだけ(経費が)かかるか分からない」と警告しました。

また自衛隊関係者から、LM社がスペインとカナダにもSPY7を輸出するに「もかかわらず、日本が開発費を負担する事態に批判の声が上がっています。元海上自衛隊幹部は「LM社のスペインやカナダへの展開を日本政府が支援することになる」と指摘します。

イージス・システム搭載艦は、従来のイージス艦と違い、敵基地攻撃と迎撃能力を兼ね備えており、いわば「肩と手」を持つ艦艇です。搭載が予定されているのは、米国防長距離巡航ミサイル・トマホークをはじめ、▽射程1000キロ以上の「12式地对艦誘導弾能力向上型」▽迎撃ミサイル「SM3ブロック2A」▽対空ミサイルSM6▽極超音速滑空弾用の迎撃ミサイル「CPIR」などです。ミサイルを格納するVLS(垂直発射装置)も128発分あり、最新鋭イージス艦「あや」型への3割増えです。

新型イージスの建造費をめぐる経緯



開発費などでさらに膨らむ恐れ